

練馬区学校施設管理実施計画（素案）に  
寄せられた意見と区の考え方について

1 区民意見反映制度（パブリックコメント）による意見の募集等

(1) 周知方法

ねりま区報（12月11日号）・区ホームページへの掲載

区民情報ひろば、区民事務所、図書館等での閲覧

(2) 意見募集期間

平成30年12月11日（火）から平成31年1月18日（金）まで

2 区民からの意見

意見提出件数 9件（提出者数 5人）

3 意見に対する対応

区分	内 容	件数
◎	意見の趣旨を踏まえ計画に反映するもの	0
○	素案に趣旨を掲載しているもの	2
□	素案に記載はないが他の事業等で既に実施しているもの	3
△	事業実施等の際に検討するもの	1
※	趣旨を反映できないもの	1
—	その他、上記以外のもの	2

#### 4 区民からの意見と区の考え方

No.	意見の概要	区の考え方	対応区分
1	改築にあたっては、過去の災害事例を精査し、障がい者や介護が必要な高齢者等を考慮したうえで、仮設トイレへの移動距離は短くバリアフリーで雨にも濡れない等、過去の災害で顕在化した課題が改善できるよう、配慮ある設計をお願いしたい。	学校施設の改修・改築時には、児童生徒、保護者、地域住民等誰もが利用しやすいように、段差解消、だれでもトイレの整備等を行っています。 また、体育館が2階にある学校は、改築にあわせて体育館を1階に設置することや、防災備蓄倉庫を体育館の近くに設置するなど、避難拠点としての機能を考慮し、改築を進めます。	○
2	施設の配置によっては、体育館とプールはセットで改築した方が良い学校もある。改築の範囲は総合的に判断してほしい。	改築の範囲は各棟の建築年数や改築実施時における児童生徒の教育環境、工事計画への影響等を総合的に考慮して判断します。	○
3	中学校の武道の指導は保健体育科で必須になっている。改築の際には武道場を設置することを検討しているのか。	武道場がない中学校を改築する際は、武道場を設置しております。	□
4	敷地面積が狭い学校の改築の際には、子どもたちの活動場所を十分に確保できるように検討してほしい。	学校施設の改築の際には、近隣の学校や他の区立施設において、運動場やプール等を一時利用するなど、児童生徒の教育環境の確保に努めています。	□
5	小規模校には小規模校の良さもある。子どもたちにきめ細かい教育を保障するためにも、30人学級、35人学級を実現してほしい。	学級編制は、国や都の基準に基づき、小学校第1学年は35人学級、小学校第2学年、中学校第1学年については、実質的な35人学級となっています。今後も引き続き、国や都の基準に基づき学級編制を行っていきます。	—
6	旭丘小中一貫教育校の新校舎は小竹小学校の児童も含めたうえでの施設規模となるのか。	新校の施設規模については、旭丘小学校・小竹小学校・旭丘中学校の統合・再編に向けた今後の検討状況や通学区域の取扱等を踏まえ、検討していきます。	—

No.	意見の概要	区の考え方	対応区分
7	<p>小竹小学校の改築を含め、同校の存続が明記されていない。学校選択制を踏まえても、小竹小学校から旭丘中学校に進学する児童がいる中で、計画があいまいに進められている。</p> <p>旭丘小学校・旭丘中学校についても、小中一貫教育校とする計画は中止すべきである。</p>	<p>旭丘・小竹地域における過小規模校の解消、学校施設の改築、小中一貫教育を含めた新たな教育需要への対応など複合的な課題に総合的に取り組むため、旭丘小学校・小竹小学校・旭丘中学校の3校を新たな小中一貫教育校に再編する対応方針案を作成しました。新たな小中一貫教育校の設置に向けて、引き続き保護者や地域の意見を伺いながら取り組んでいきます。</p>	※
8	<p>小竹小学校は、昭和34年築で、築60年近くである。小竹小学校は過小規模校ではなく、今後も児童数は増加する見込みである。子どもたちの安全を第一に考えてほしい。可及的速やかに改築すべきである。</p>	<p>学校施設の改築の際には、長寿命化の適否や建築年数、児童生徒数の動向など、様々な要素を総合的に考慮して、改築実施校を選定していきます。</p> <p>改築までの間については、各施設の状況に応じた適切な点検と必要な改修を行います。また、全ての学校施設は、耐震補強工事等により必要な耐震性を確保しています。</p>	△
9	<p>大泉桜学園で実施されている小中一貫教育を教育専門家、保護者を含めた場で、デメリットも含めて検証すべきである。</p>	<p>区では、全中学校区で小中一貫教育に取り組んでいます。</p> <p>大泉桜学園の小中一貫教育については、平成25年度から27年度にかけて、教育専門家、PTA等を含めた検証部会を設置し、成果と課題について報告書としてまとめています。</p> <p>また、毎年度、大泉桜学園をはじめ、各校での様々な取組等について小中一貫教育の研究発表会やフォーラムを開催しており、今後も小中一貫教育の充実に取り組んでいきます。</p>	□